After all,

We Love Camaro

世代を超えて愛されるカマロ

ボディーパーツのアレンジと独自のカラーリングが際立つ

'09年に復活した先代カマロは同時期のマスタングと並んでカスタムのベースとして親しまれているモデル。現行モデルにはないどこかクラシカルなスタイリングは、現在でもクーペの候補としては最有力候補。眩しいほどのホワイトで全体をまとめたこのカマロは、フェイスをZL1仕様へとチェンジさせたことで、ノーマルモデルとの差別化を図った。このZL1とは、初代カマロ（'67-'69年）の販売当時、特別注文で生産された本格的なレース仕様の7.0Lアルミエンジンを搭載したモデルであり、SSやZ28とは別格の位置付けだったもの。

当時の限定的な販売だったZL1が、おおよそ半世紀を経て復活したのが"12年モデルから。当時は6.2L LSAモーターにスーパーチャージャーを搭載して、歴代の中でも最高峰のスペックを誇ったモデルでもあり、この最強カマロのZL1は、現行モデルにも引き継がれており、カマロのオーナーにとっては憧れの存在。

フェイスのほか、シートもZL1用にチェンジされ、ボディカラーと合わせたことでボリューム感を強調したリアビューとなったリアディフューザーはExpride社製をチョイス。カーボン素材のエキゾーストエンドなど、ハイスペックを予感させてくれるスタイリングに仕上げている。さらにコンバーチブルトップはバーガンディカラーで張り替え、ホイールの一部とカラーコーディネートしたことで、独自のオリジナリティを表現している。

2012 CHEVROLET CAMARO

text & photographs by MASAHITO HAYASHI
special thanks to GRACE CAB www.gracecab.jp 0568-35-7790
owner : RYO ＜AICHI＞

インテリアは基本的にストックながらも、外観のモディファイに合わせてZL1仕様のシートを移植する徹底ぶり。

フェイスは'12年に登場したハイパフォーマンスモデルのZL1用をスワップ。クーペをベースにしたスーパーチャージャー搭載のZL1フェイスをコンバーチブルにスワップしたことで、より個性溢れるルックスに仕上がっている。

このカマロのキャラクターを主張するリアディフューザーは、重厚感のあるボリュームとデザインが特徴のExpride社製をセット。大きくせり出したフィンなどと本体下部との色分けで、さらにボリューム感を演出する。エキゾーストのエンドはカーボンマテリアルをチョイス。

ボディとのカラーリンクを合わせたホイールは、キャストのモノブロックワンピースのNICHE Sport Apex M125モデルを装着。フロント22×9、リア22×10.5。タイヤはZenna argus-UHPでフロント235/30-22、リア255/30-22。

サスペンションはエアサスを搭載し、ユニットはトランク内にレイアウト。コンバーチブルゆえトランクのスペースを犠牲にすると収収納スペースがなくなるので、ある意味思い切りの良さが見て取れる。

リアビューともうひとつ、大きな特徴のひとつでもあるコンバーチブルトップの張り替え。バーガンディのシャーマンクロスをチョイスしたことで、誰にも似ていないルックスを確保。

5頭の犬を飼う愛犬家でもあるオーナーのRYOさん。昨年の夏にSUVからこのカマロに乗り換えたばかり。

P000-000-GRACE CAB CAMARO-NS24.indd すべてのページ 2020/06/10 14:34